

SPARX

2012年3月期 第2四半期決算 説明会資料

2011年11月14日



スパークス・グループ株式会社

2012年3月期 第2四半期の業績 と 今後の施策



2012年3月期 第2四半期のポイント

極めて厳しい市場環境であったが、前年度並みの営業キャッシュフローを確保。

【今後も楽観を許さない状況が続くと認識】

- ▶AUM:世界的な市場の混乱、円高・株価下落 ⇒ 当四半期末にかけて、AUMが減少
- ▶基礎収益力:AUMの減少と残高報酬料率の低下により低迷
- ▶成功報酬・その他収益:当四半期は4.4億円計上したが、今後の見込みは不透明

運用事業の品質維持に注力し、お客様の期待に応える。

市場の混乱／顧客の悩みに応えるInnovation(新たなキャッシュフローの提供)

+

更なる効率化(コスト削減)の推進



2012年3月期 第2四半期決算(P/L)

- 平均AUMは前年同期比微増だが、足下のAUMは減少。
(2011年第2四半期:6,206億円(前年同期:6,160億円))
- 残高報酬料率の低下が影響し、残高報酬は減少。(21.3億円(前年同期 25.4億円))
- 成功報酬・その他収益は、前年同期比で概ね半減。
(成功報酬:4.6億円(前年同期 8.7億円)、その他収益1.3億円(前年同期 3.0億円))

▶ 営業収益: 27.3億円 (前年同期 37.2億円)

▶ 営業費用・一般管理費: 32.7億円 (前年同期 40.4億円)

内: のれん償却費用が8.1億円

▶ 営業損益: ▲5.4億円 (前年同期 ▲3.1億円)



のれん償却前営業利益は +2.7億円を確保。(前年同期:4.6億円)

(為替差損・特別損失等は前年同期比大幅に減少し、)

▶ 四半期純損失: ▲8.2億円 (前年同期 ▲12.1億円)



損益計算書の概要

2012年3月期 第2四半期 損益計算書等の概要

	2011年3月期		2012年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	6,160	6,260	6,206	0.7%
営業収益 (百万円)	3,726	7,101	2,732	-26.7%
営業費用・一般管理費 (百万円)	4,040	7,967	3,274	-19.0%
営業損失 (百万円)	-314	-865	-541	-
経常損失 (百万円)	-487	-998	-445	-
四半期純損失 (百万円)	-1,217	-3,698	-820	-
従業員数(期末) (人)	176	168	158	-10.2%
TOPIX (期末)	829.51	869.38	761.17	-8.2%

「のれん」償却前、
467百万円

「のれん」償却前、
273百万円



- (注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。
(注2) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。
(注3) 上記表中運用資産残高は、COSMO社およびSPARX Asia社の運用資産残高を含む。なお、2011年9月末の運用資産残高については、速報値をベースに算定している。

営業収益の内訳

営業収益内訳・成功報酬付AUM付帯比率

営業収益内訳	2011年3月期		2012年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	前年同期比
残高報酬 (百万円)	2,541	4,869	2,137	-15.9%
料率(手数料控除後) (%)	0.72%	0.67%	0.61%	-0.11
成功報酬 (百万円)	876	1,873	462	-47.3%
対AUM付帯比率 (%)	60.9%	57.9%	55.1%	-5.7
その他営業収益 (百万円)	308	357	133	-56.9%
営業収益 合計 (百万円)	3,726	7,101	2,732	-26.7%

残高報酬料率の低下が影響

- FoFビジネスの売却等により、高い料率のAUMが減少。
- 相対的に低い料率の韓国国内顧客からの資産割合が高まる。

厳しい運用環境であり、前年比減少するも 4.6億円計上。

(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」「対前年度比」については、四捨五入により小数点第1位まで表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」の「前年同期比」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「対前年度比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 残高報酬料率(手数料控除後) = (残高報酬 - 残高報酬に係る支払手数料) ÷ 期中平均運用資産残高

(注3) 2011年9月末の数字は、速報値に基づいて算定している。



経費内訳：継続的なコスト削減

2012年3月期 第2四半期 経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2011年3月期		2012年3月期		前年同期比
		第2四半期	通期	第2四半期	前年同期比	
		内、賞与等 696百万円		内、賞与等 285百万円		
支払手数料	営業費用	327	767	264	-19.2%	
人件費	一般管理費	1,797	3,413	1,265	-29.6%	
委託計算費	営業費用	35	71	36	3.5%	
旅費交通費	一般管理費	98	193	86	-11.8%	
不動産賃借料	一般管理費	249	474	219	-12.0%	
事務委託費	一般管理費	211	366	134	-36.3%	
減価償却費	一般管理費	80	149	40	-49.9%	
その他	一般管理費	458	858	411	-10.2%	
のれん償却額	一般管理費	782	1,671	814	4.2%	
営業費用・一般管理費 合計		4,040	7,967	3,274	-19.0%	

注：41.8億円 (経常的経費) と (年換算) 38.5億円 (減価償却費) の削減が示されています。



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。

(注3) 「負ののれん償却額」として、49百万円(2011年3月期第2四半期)、99百万円(2011年3月期通期)、49百万円(2012年3月期第2四半期)が、それぞれ営業外収益に計上されている。

基礎収益力: 更なる経営効率化が必要

2012年3月期 第2四半期 基礎収益力

		2011年3月期	2012年3月期1Q	2012年3月期2Q
		通期	(年換算ベース)	(年換算ベース)
AUM平残	(億円)	6,260	6,616	6,206
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.67	0.60	0.61
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	4,199	3,970	3,766
経常的経費	(百万円)	4,187	4,049	3,853
基礎収益	(百万円)	11	▲79	▲87



(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

2012年3月期 第2四半期決算(B/S)

(資産／負債の部)

- 有利子負債の額(99億円)に比して、十分な現預金及び有価証券・投資有価証券(合計で166億円)を保有。
- 15億円の私募社債を発行し、資金繰りは一層安定化。
- 1年内の外部負債の返済(合計で84億円)には、特段の問題なし。

(純資産の部)

- 急激な円高／ドル安&ウォン安の進行が為替換算調整勘定に影響。
(2011/9末:▲4.5億円(2011/3末: +3.7億円))決算時に使用しているレートは以下のとおり。

(単位:円)	2011/3末	2011/9末	前期末比
米国ドル	83.15	76.65	▲7.8%
韓国ウォン	0.0755	0.0652	▲13.6%

- 世界的な株価の下落と円高が、その他有価証券評価差額金に影響。
(2011/9末:▲19.2億円(2011/3末 ▲9.3億円))

⇒自己資本は、当期純損失(8.2億円)を大きく上回り、2011/3末に比して26.3億円減少、115.3億円となる。(2011/3末:141.6億円)



貸借対照表の概要:純資産は131億円に減少

2011年9月末時点 貸借対照表概要

(単位:百万円)	2011年3月	2011年9月	前期末比
流動資産	13,281	12,714	-567
うち、現預金	8,659	8,880	221
うち、有価証券	1,959	2,220	261
固定資産	14,629	11,504	-3,125
うち、のれん	6,338	5,371	-966
うち、投資有価証券	7,676	5,518	-2,157
(資産の部 合計)	27,911	24,218	-3,692
一年以内償還予定の社債	-	4,900	4,900
一年以内返済長期借入金	5,000	3,500	-1,500
社債	4,900	1,500	-3,400
(負債の部 合計)	11,890	11,062	-828
資本金	12,435	12,440	5
資本剰余金	14,295	14,300	4
利益剰余金	-7,566	-8,387	-820
自己株式	-4,438	-4,438	-
その他有価証券評価差額金	-931	-1,927	-995
為替換算調整勘定	370	-455	-825
少数株主持分	1,761	1,521	-239
(純資産の部 合計)	16,021	13,156	-2,864



(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 投資有価証券は、当社グループが運用するファンドへのシードマネーを含む。

Liquidity Management – 再成長への資本基盤

(2011年9月末現在) 有利子負債控除後の純資産ベースのバランスシート(概算) (単位:百万円)

のれん 5,371 SPARX Asia 2,398 COSMO 2,974 固定資産等 800 既存の固定資産 600 新規システム投資 200	【1】 固定化された資産 6,171	純資産 13,156	
流動資産等 500 現預金 5,500 SAM 2,000、COSMO 2,000 SPARX Asia 500、SHC 1,000	【2】 運転資本必要額 6,000		Available Equity 6,985 (985)
自社ファンド、その他 待機資金	【3】		

のれん償却前で利益が維持されれば、増加する。

保有有証の時価、為替変動で変動。

- 純資産は減少したものの、グローバル3拠点(Tokyo, Seoul, Hong Kong)を安定的に運営、成長させる運転資金(60億円)は、十分に自己資本で賄える。
- 新たな外部調達の実行もあり、一定水準の自社ファンド等の保有にも対応可能。

年度目標への見通し

第2四半期までの業績推移、
現状のAUM動向、運用成績、新事業の立ち上がり状況、
不安定さが続く市場環境 等 を勘案すると、

誠に遺憾ながら、

年度目標として掲げた
今年度における 黒字化／復配 は、
達成が困難と言わざるを得ません。

不退転の決意を持って、業績回復に取り組んで参る所存であります。



課題と取組み

Seoul (Cosmo社)

- 厳しい環境下でも、運用資産動向は流入超であり、事業基盤に揺るぎはない。
- Volatilityの高い市場環境にも対応可能な運用体制の構築。
- 韓国国内投信事業に関しては、今年中に本免許を取得の見通し。

Hong Kong (SPARX Asia社)

- 一部の投資戦略がCloseされたが、高品質な業務運営Platformは健在。
- グループ全体のオフショア・マーケティングの拠点としての体制整備。
- SPARX OneAsia Long-Short Fund の品質向上と資産拡大に注力。

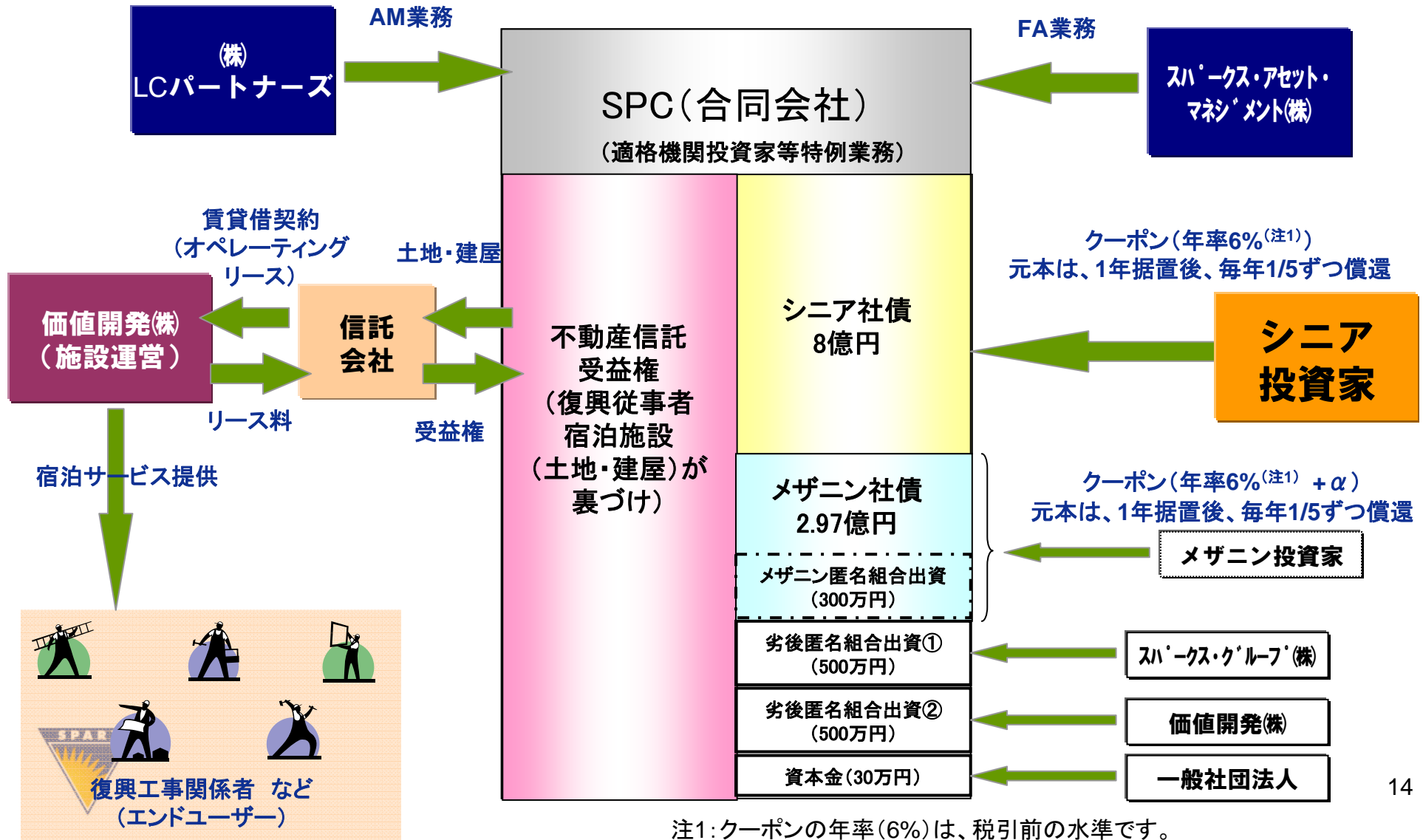
Tokyo (SPARX Asset Management社)

- コア事業(日本株に係る投資戦略)の品質維持／改善と顧客満足度向上に全社で注力。
- 市場／顧客の変化とニーズに応えるInnovation Spiritと実行力は健在。
 - ⇒ 「東北早期復興支援ファンド1号」の組成 …… 2号、3号案件が進捗中。
 - ⇒ 代替エネルギー領域における投資ストラクチャーへの取組み。
 - ⇒ 日本株への新たな投資視点、投資戦略の開発。
- 徹底的な業務効率化の推進による、コスト構造の見直し。(年内には、具体的な着手を予定している。)



厳しい環境下でも、収益を産み出す 筋肉質な経営体質を構築。

＜ご参考＞東北早期復興支援ファンド1号 最終ストラクチャー



注1: クーポンの年率(6%)は、税引前の水準です。

参考資料



スパークス・アセット社 主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2011年9月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	日本株式 ロング・ショート (ドル建、Lev.2)	日本株式 ロング・ショート (円建、Lev.1)	日本株式 集中投資
コンポジット	5.86%	1.72%	11.76%	1.89%	3.38%
参考インデックス値	-3.10%	-0.83%	-0.66%	-4.60%	-3.65%
超過リターン	8.96%	2.56%	12.42%	6.49%	7.03%

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株ス タイルインデックス・ミッド・ アンド・スモール	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込
計測開始日	1997年5月	2000年1月	1997年8月	2000年6月	1999年7月
コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	22.89%	18.23%	11.11%	7.04%	20.93%



(注1) 上記表中の数字は、スパークス・アセット社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成している。

表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後。また、上記数字は四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。

(出所) スパークス・グループ (2011年9月末現在)

スパークス・アセット社 コンポジット算出に関する追記

1. 各コンポジットはSPARXグループのグループ会社(ただし、COSMO社、SPARX Asia社を除く)が運用するポートフォリオを対象としている。
2. 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
日本株式ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略

3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期
日本株式一般(合同口)	-14.57%	-28.93%	-34.48%	34.27%	-5.74%
日本株式中小型	-11.86%	-28.95%	-25.64%	33.32%	-1.87%
日本株式L/S(ドル建、Lev2)	-3.74%	-14.43%	5.95%	8.77%	8.23%
日本株式L/S(円建、Lev1)	-7.50%	-11.31%	-4.13%	6.03%	4.00%
日本株式集中投資	-18.71%	-10.14%	-25.67%	23.14%	-1.76%

この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のものです)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確実性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(スパークス・グループ株式会社の100%子会社)は、グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS®)に準拠して本資料の関係部分を作成し提示しています。準拠主体である会社はスパークス・アセット・マネジメント株式会社及び SPARX Overseas Ltd. で構成されます。スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、日本において投資運用業、投資助言・代理業、第一種及び第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。

スパークス・グループ株式会社

郵便番号141-0032
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー16F

Tel: 03-5437-9700 (代)